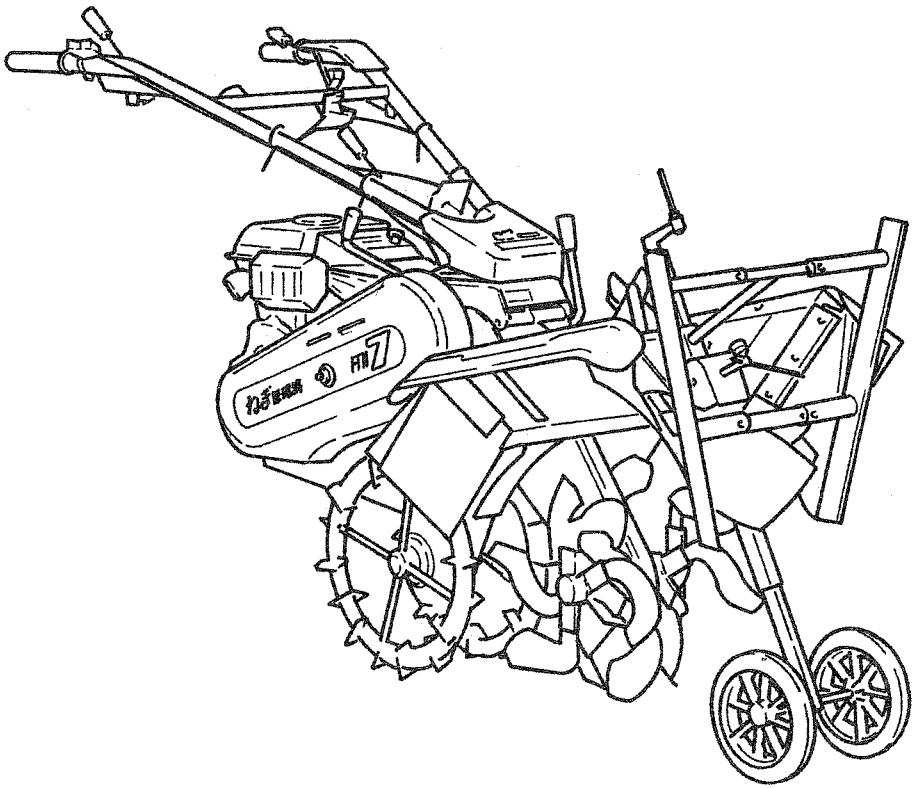
クボタ管理機

取扱説明書

FTN7



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

R ・・・ 変速位置が後進

・・・ チョークレバの調節

・・・ ギヤーオイル

・・・ ガソリン燃料

O ・・・ 燃料コック「開」

C ・・・ 燃料コック「閉」

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が秀れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。
また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

LK331-4311-1

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠**危険**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

⚠**警告**：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

⚠**注意**：注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと損傷や故障の恐れがあります。

補　足：その他、使用上役立つ補足説明をしています。

目 次

安全に作業するために ---------- 1

警告ラベルとその取扱い ---------- 6

サービスと保証について ---------- 8

1. もうおぼえられましたか　●各部の名称と装置の取扱い ---------- 9

2. 作業前にこれだけチェック　●作業前の点検について ---------- 12

3. このように運転します　●上手な運転のしかた ---------- 14

4. こんなときどうする　●簡単な手入れと処理 ---------- 17

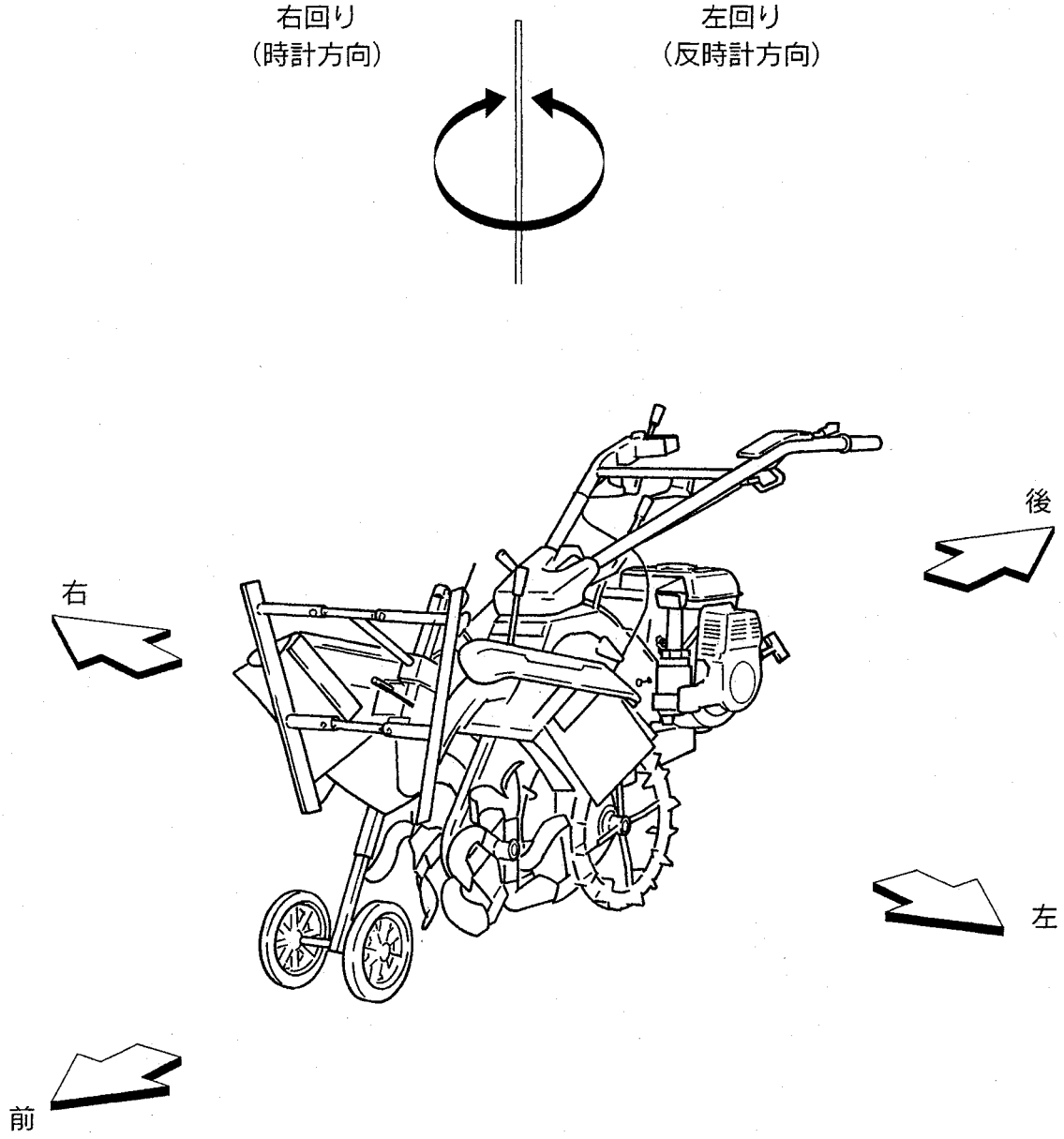
5. 作業が終ったら ---------- 23

付記・主要諸元・走行速度一覧表・主な消耗品一覧表・標準付属部品 ---- 24

⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。
安全に作業をするため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記のとおりですが、これ以外にも本文の中で「⚠警告サイン」として説明のつど取り上げております。

またこの取扱説明書で使用している〈前後・左右・左回り・右回り〉などの〈用語〉は図示のように決めております。



⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。安全に作業をするため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記のとおりですが、これ以外にも本文の中で「⚠警告サイン」として説明のつど取り上げております。

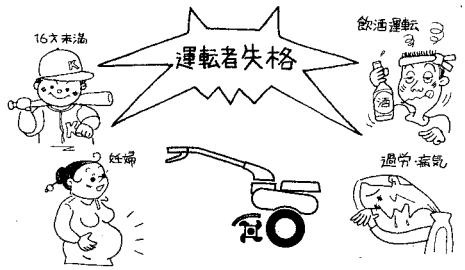
運転する前に

使用する人は

機械の運転操作、特に主クラッチ「切」はすばやくできるよう、よく練習し、充分になれてから作業すること。

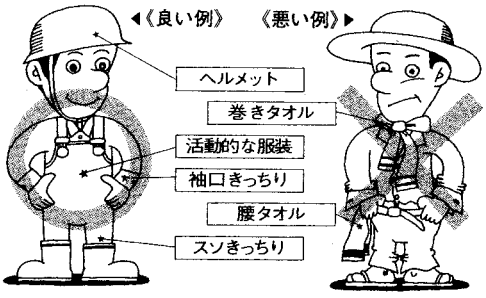
次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

☆本書及びラベルの内容が理解できない人
☆視力不足等のため表示内容が読めない人
☆飲酒時や体調が悪い時または妊娠中の人
☆16才未満の人



使用する人の服装は

回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオル等はやめてヘルメット・安全靴・保護メガネや手袋などを必要により着用する。

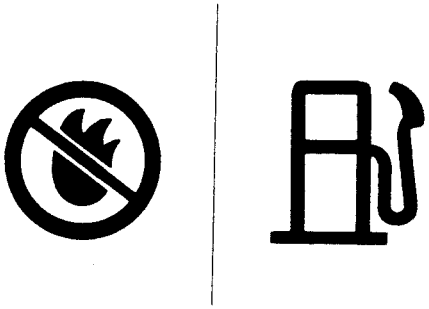


他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え、「取扱説明書」を必ず読んでもらうこと

給油・注油するとき【火気厳禁】

燃料の給油・補給は必ずエンジンを停止し、こぼれた燃料はふきとり、煙草を吸ったり火気をちかずけない。

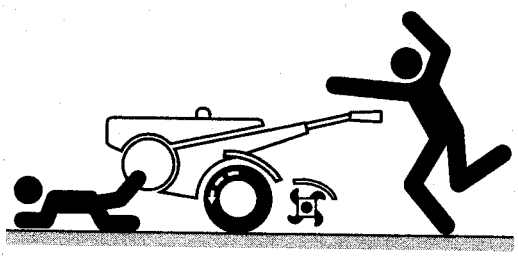


始動するとき

エンジンをまわすとき

必ず本機、ロータリ（作業機）の主クッラチレバーを「切り」変速レバーは「中立」にして付近に人（特に子供）をちかずけない。

もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になる恐れがあります。



排気ガスに注意

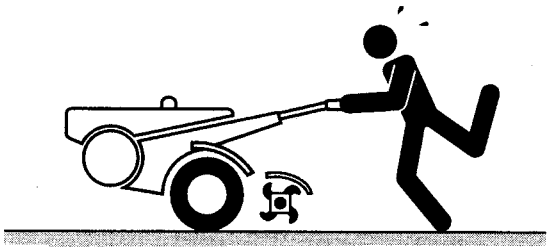
排気ガスによる1酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス、車庫等）では使用しない。

⚠ 安全に作業するために

移動・作業するとき

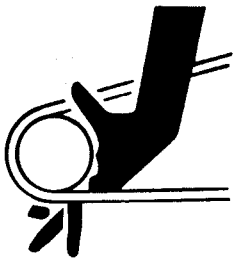
発進するとき

車速の最低速でクラッチレバーの「入り」はゆっくり入れ「切り」は素早くの操作を習熟した上で使用ください。
小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしない。



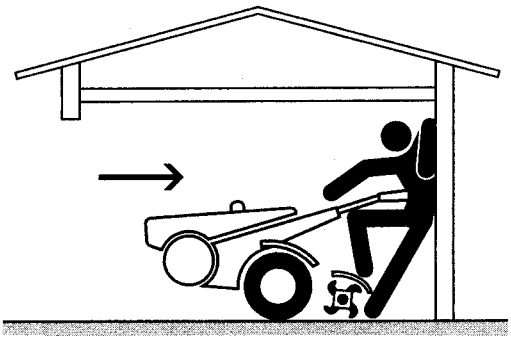
PTO軸を使用するとき

回転物に巻き込まれる恐れがあるのでまわりにカバーや囲いをすること。使用しない時はカバーを組み付けること。



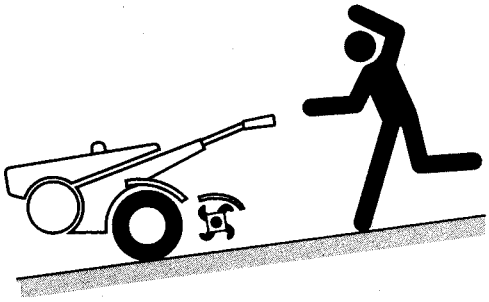
ハウス・車庫等での移動

後方の壁・支柱・天井など障害物にはさまれる恐れがありますので遅い車速で後進する。



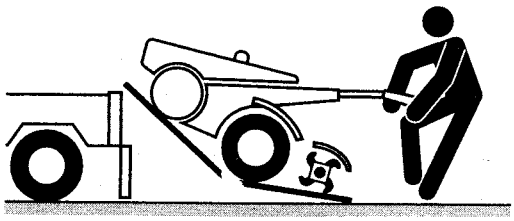
坂道を移動するとき

坂道、ほ場の出入り、畦の乗り越え等の途中で主クラッチを「切」ったり、変速を「中立」にすると、機体がおもわぬ方向に進み危険です。変速操作は機械が平坦な場所以外では行なわない。また、坂道や凹凸・カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転のこと。

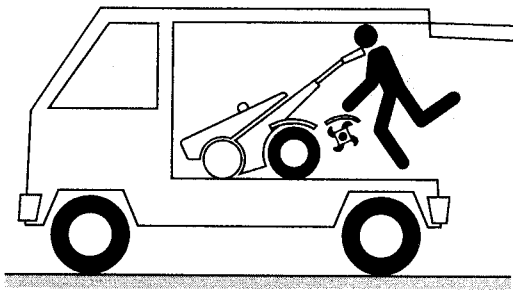


積み降ろしするとき

丈夫なすべり止めをしたアユミ板を確実に固定し、足元に注意し変速は最低速で上りは「前進」下りは「後進」にする。
途中で主クラッチ操向クラッチは切らないこと、変速も操作しないこと。



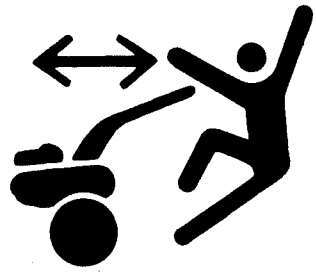
車などで運搬するときは、必ず荷台に天井がない車を使用する。



⚠ 安全に作業するために

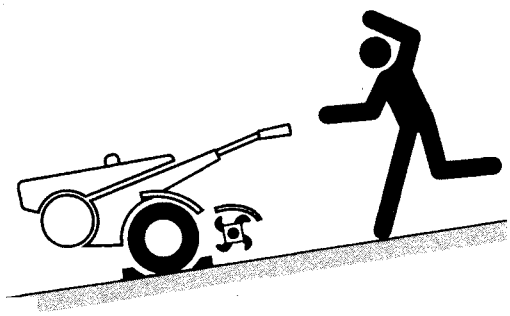
耕うん作業時

車軸（ロータ）・爪軸（ロータリ）作業では機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故の恐れがありますので、主クラッチは素早く切ること。



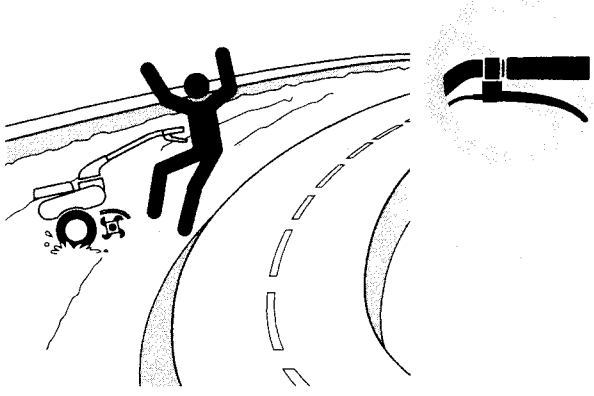
機械から離れるとき

エンジンは必ず停止させ、平坦で安定した場所に駐停車します。
やむなく傾斜地に止めるときは車止めをする。



坂道を移動するとき

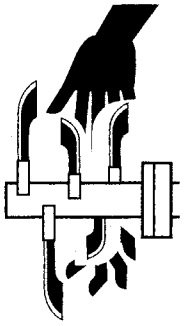
坂道で操向クラッチを操作すると、思わぬ方向に曲がり転倒の恐れがありますので、必ずハンドル操作で方向転換のこと。



作業が終った時

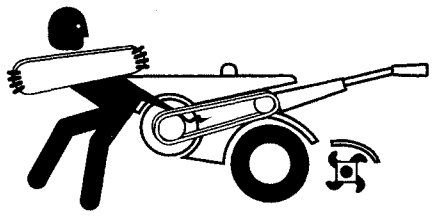
掃除をするとき

車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻き付いた草・ワラ・泥土等を取り除く時は必ずエンジンを停止する。



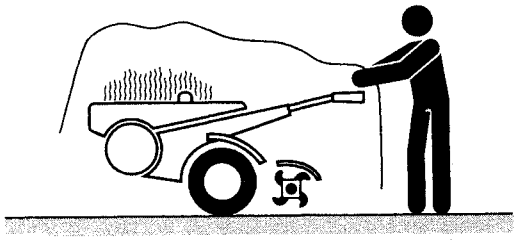
カバー類は必ずつける

ベルトカバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して、作業後は取り外したカバー類は元どうり組み付ける又作業機（ロータリ）を外した時はPTO軸にカバーをつける。



格納するとき

機体に保管用カバーをかけるときは火災予防のため高温部が冷めてから行う。



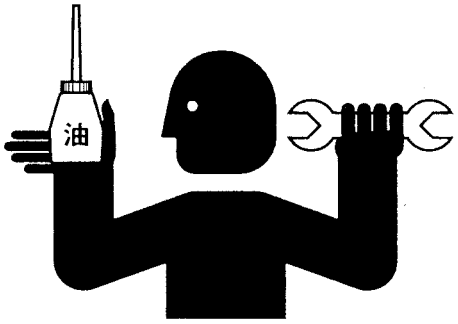
⚠ 安全に作業するために

点検・整備をするとき

点検・整備・アタチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め、高温部が冷めてから行う。

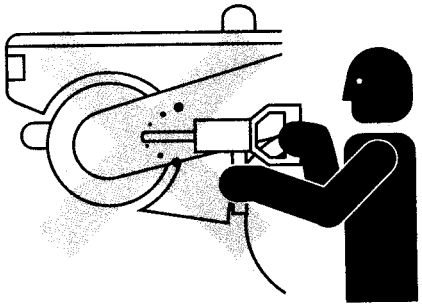
1年毎の定期点検を

機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検・整備を受け、特に燃料パイプや電気配線は2年毎に交換して安全に作業出来るようにする。



機械の改造禁止

機械を改造しないこと、改造すると、機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる。

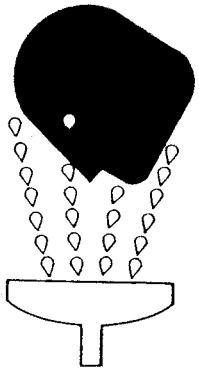


公道走行禁止

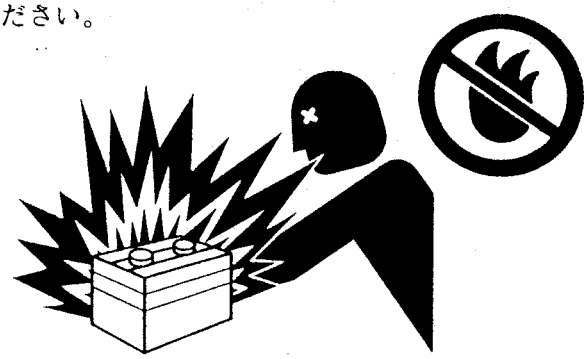
移動する時は一般公道を走行しない、車などで運搬すること。

バッテリ点検するとき

バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。



バッテリは充電中可燃性ガスを発生し爆発の危険性がありますので，タバコをすったり火気を近づけないでください。



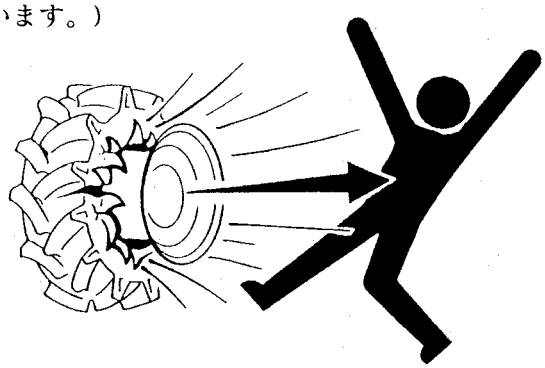
タイヤの整備

タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。

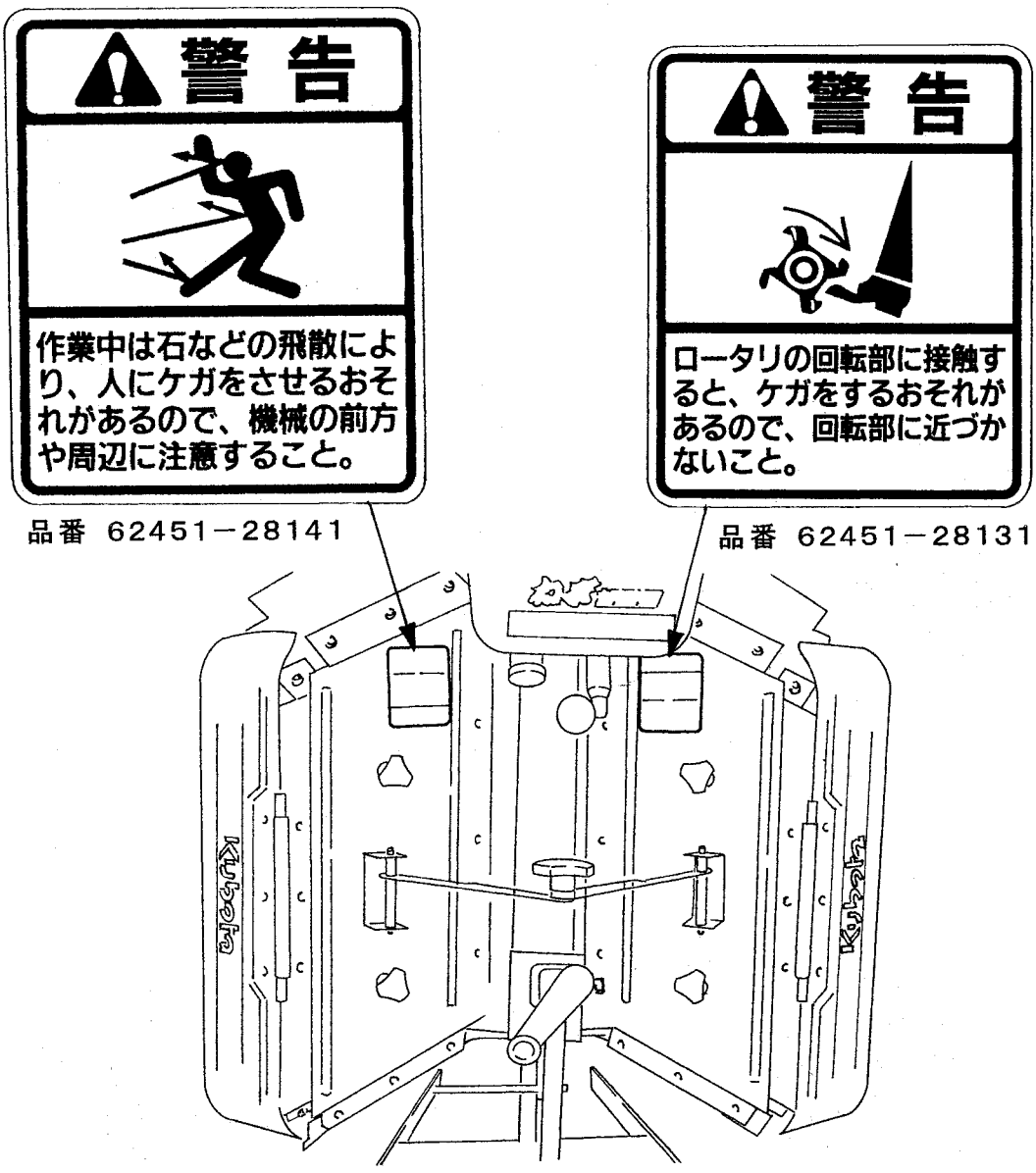
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)



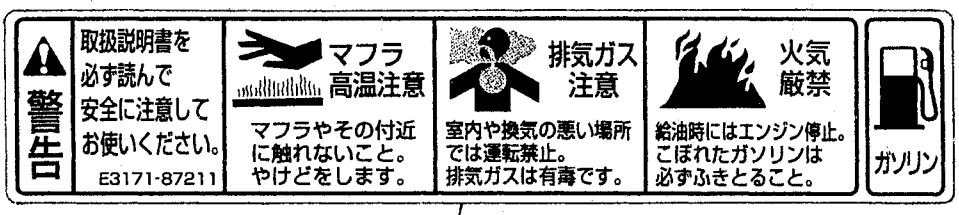
警告ラベルとその取扱い

【ラベルのメンテナンス】

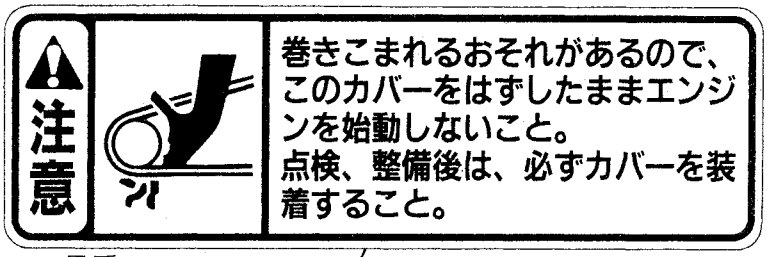
(1) 警告ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
(2) 警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、新しいラベルに取り替えてください。
(3) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを完全にふき取り乾いた面にして元の位置に貼ってください。



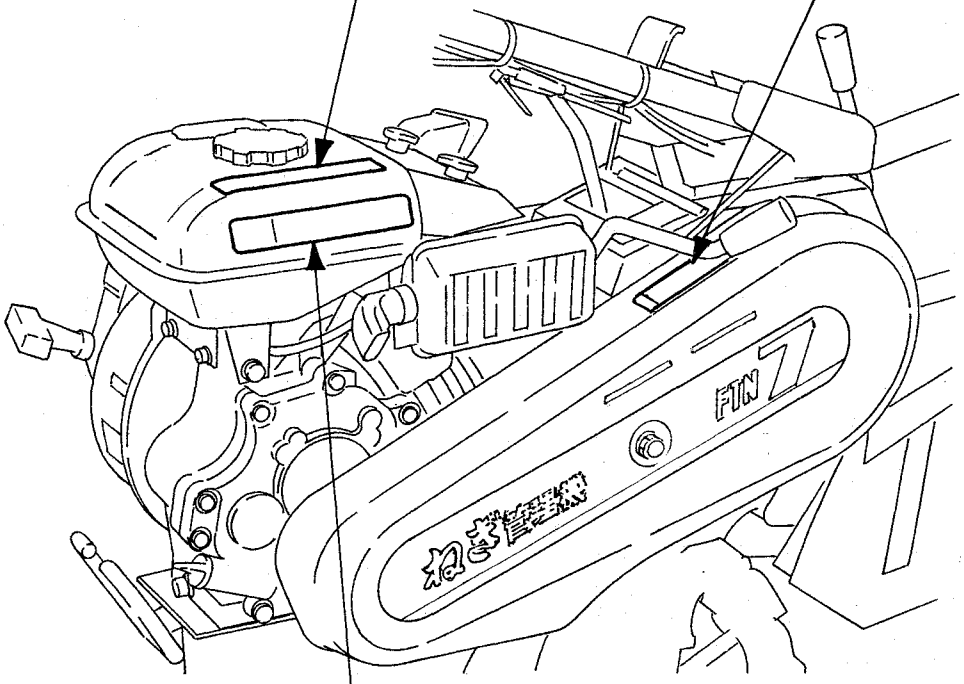
⚠ 安全に作業するために

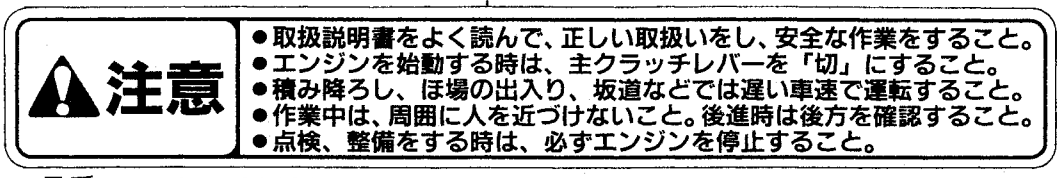


品番 E3171－87211



品番 62451－28111



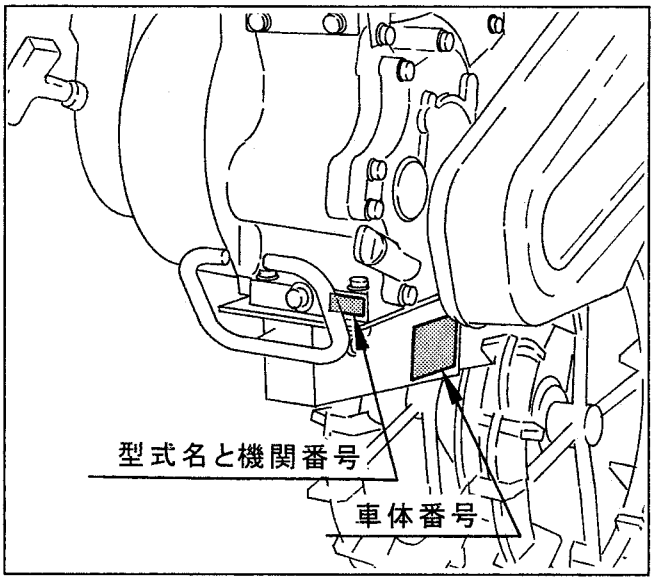


品番 62451－28121

サービスと保証について

ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについて、ご不満・ご要望・ご意見などがございましたら下記の「**ご相談窓口**」にご遠慮なくお寄せください。
その際（1）商品名と車体番号
（2）搭載機関の型式名と機関番号を併せてご連絡ください。



サービスの実施

お買い上げいただきました販売店・農協が点検・修理をはじめサービスのご相談などをお受けいたします。
なお、部品のご注文の際は、販売店・農協に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

⚠ 警　告

機械の改造は危険ですので、改造はしないでください。
改造した場合や取説に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

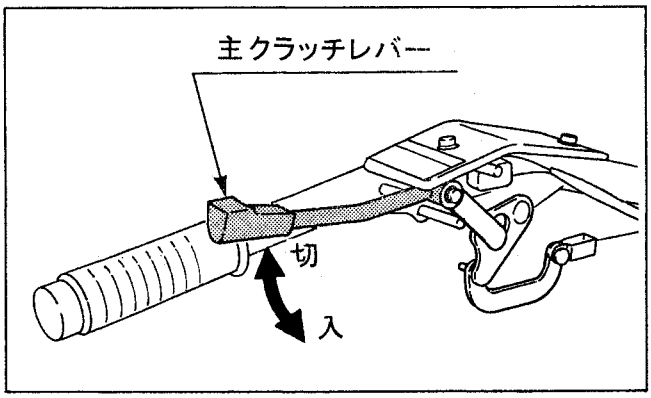
安全鑑定適合番号

クボタＦＴＮ７　２５０６０

1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

1 主クラッチレバー

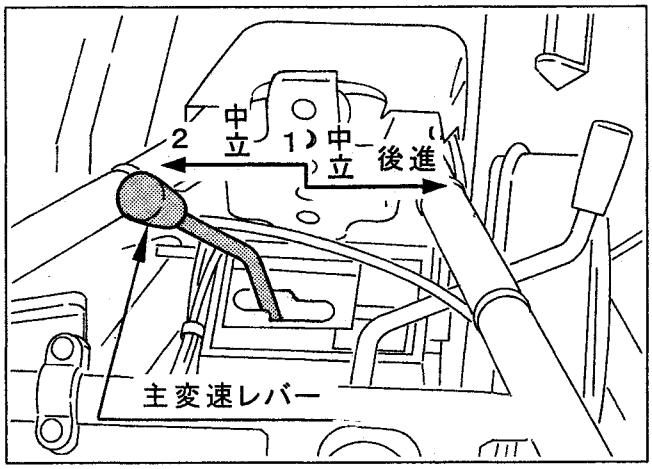
エンジンの動力を断続します。

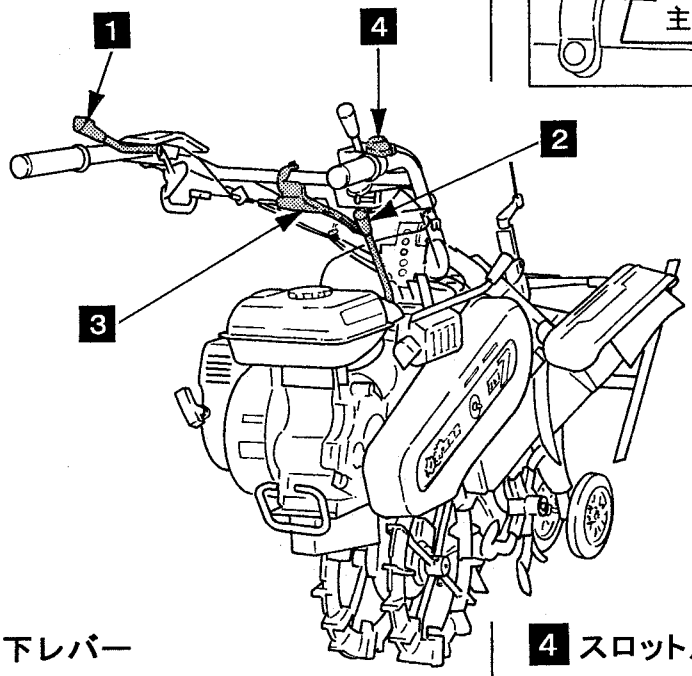


2 主変速レバー

・走行速度のチェンジを行います。

・前進2段、後進1段



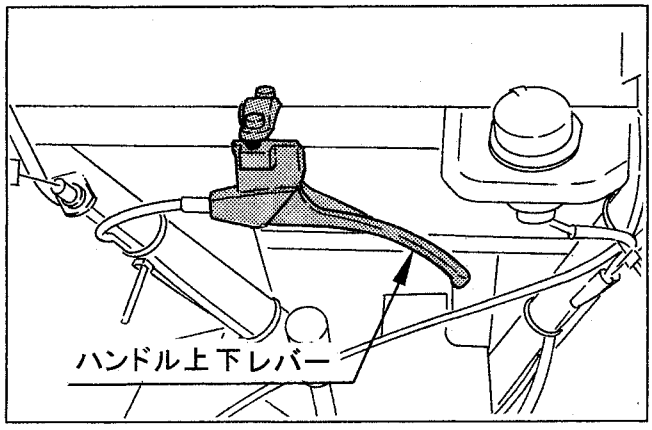


ラベル(縮小)

3 ハンドル上下レバー

ハンドルを上下するときに使います。

レバーを握るとロックが外れ、ハンドルが上下できます。

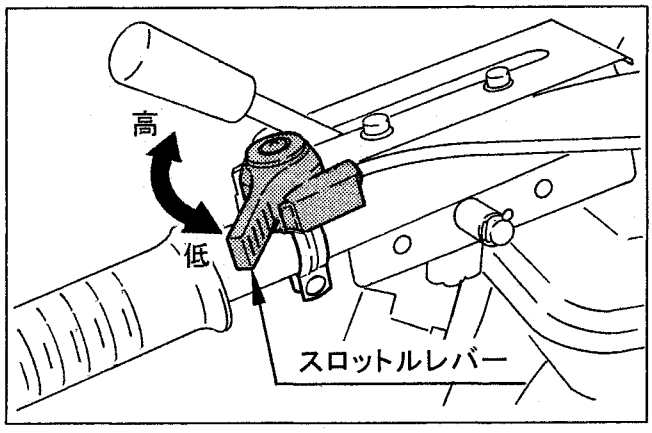


4 スロットルレバー

・エンジン回転の調節をします。

(1)「高」の方向に回すと回転が上がります。

(2)「低」の方向に回すと回転が下がります。

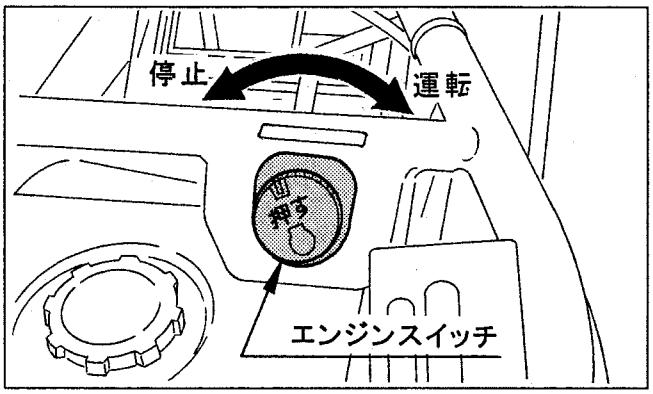


1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

5 エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ）

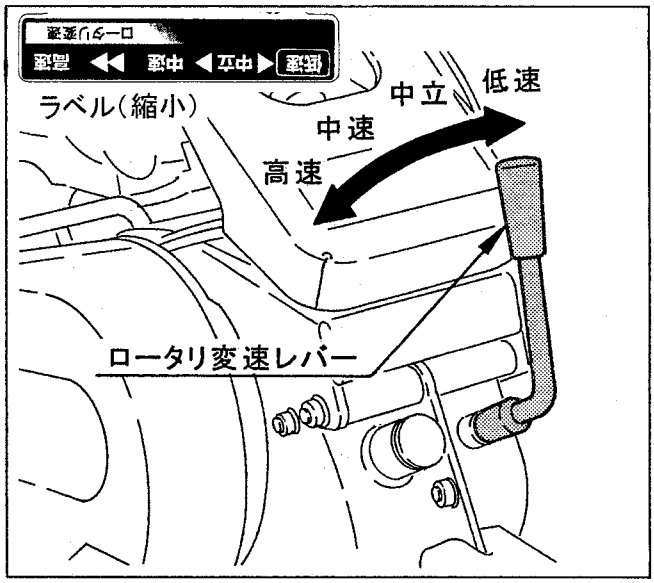
・エンジンの運転、停止に使います。

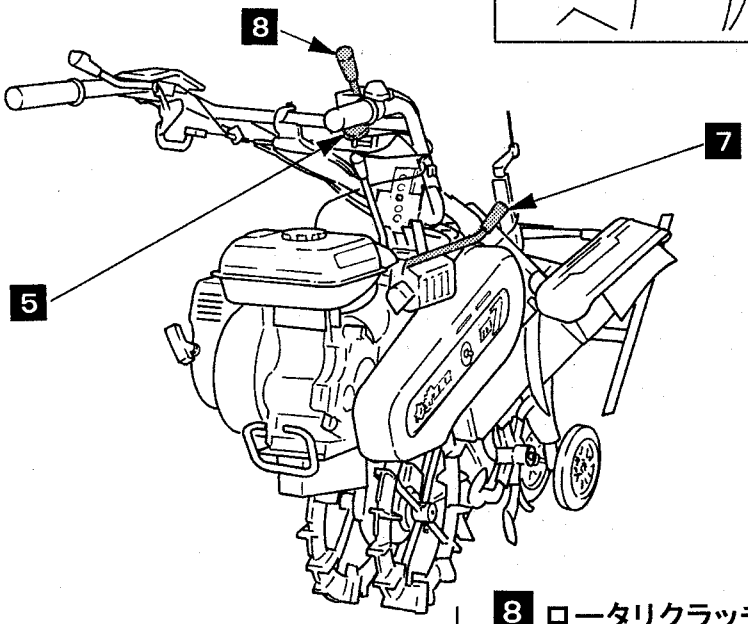
・このスイッチは「**緊急停止スイッチ**」も兼ねています。詳細な操作はP16参照してください。



6 ロータリ変速レバー

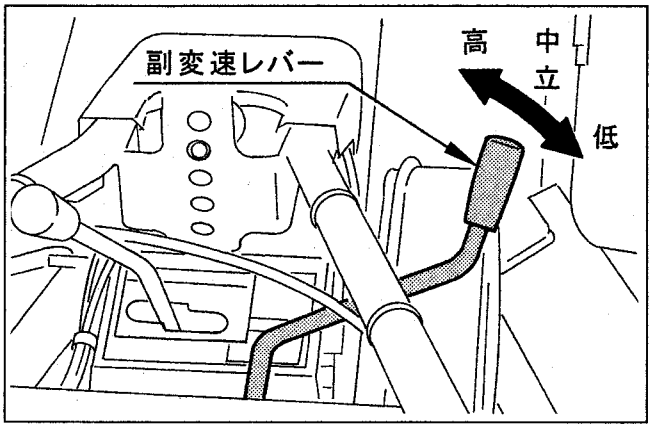
・ロータリ爪軸の回転数のチェンジを行います。





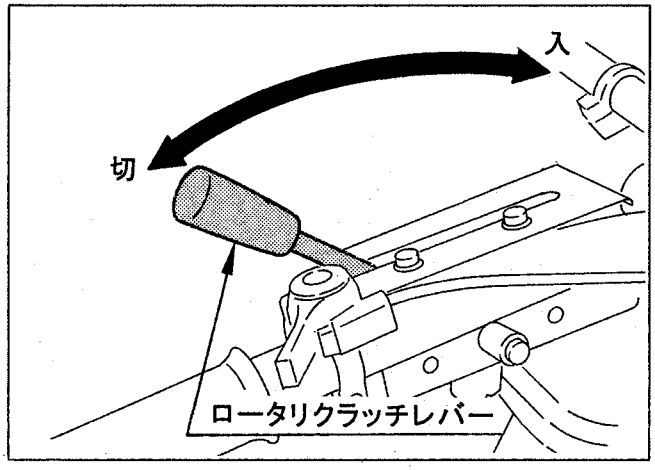
7 副変速レバー

・走行速度の高低のチェンジを行います。



8 ロータリクラッチレバー

ロータリ爪軸回転の継続を行います

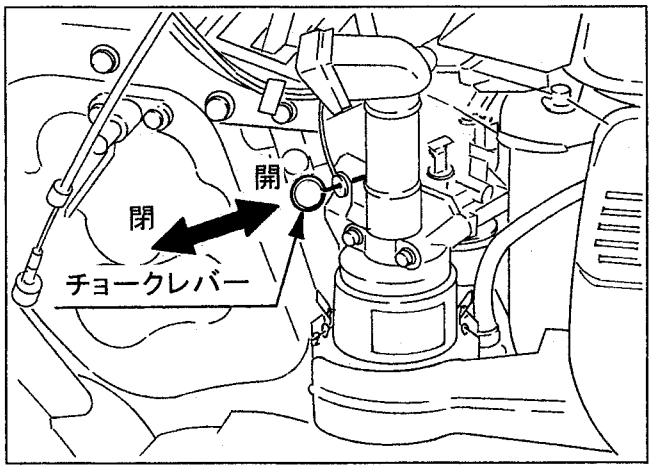


1　もうおぼえられましたか？●各部の名称と装置の取扱い

9 チョークレバー

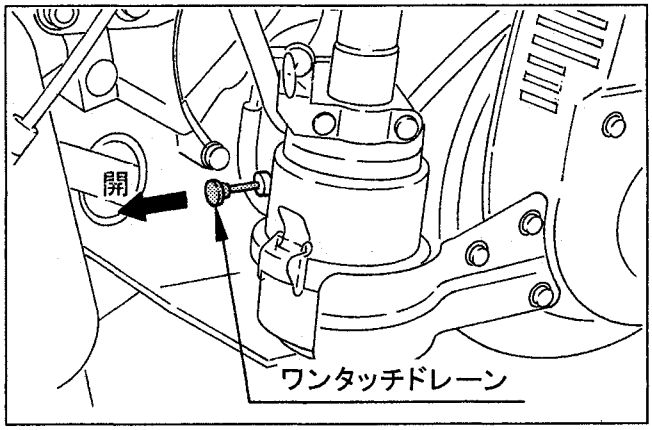
(1)始動前－レバーを引く(チョーク閉)

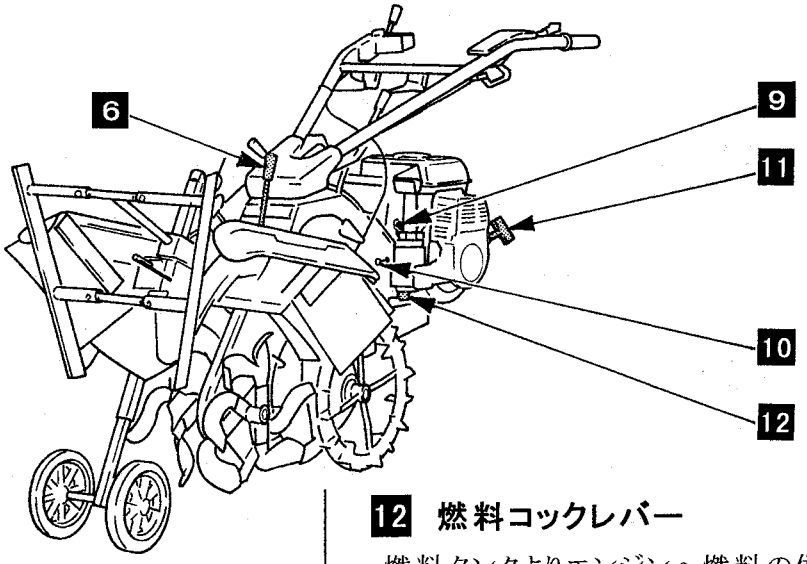
(2)始動後－レバーを押す(チョーク開)



10 ワンタッチドレーン

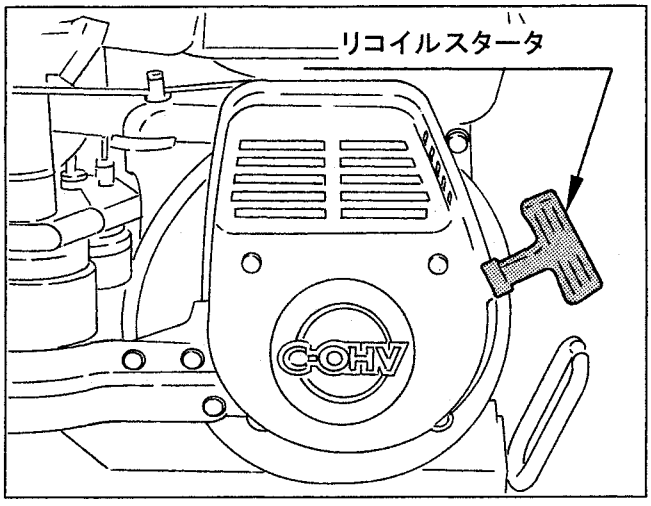
キャブレターの中の燃料を抜き取る時に使います。





11 リコイルスタータ

・エンジンの始動に使います。

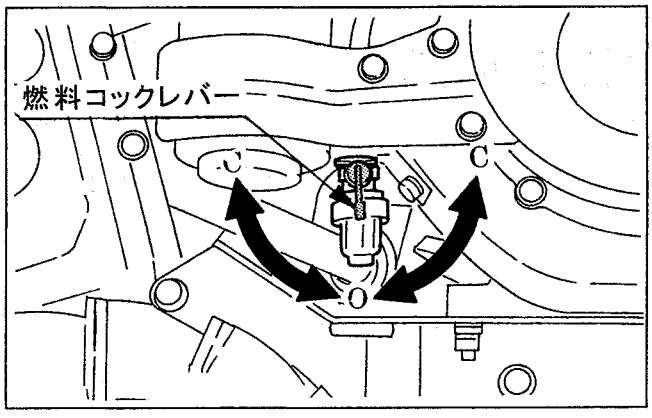


12 燃料コックレバー

・燃料タンクよりエンジンへ燃料の供給、停止を行います。

「O」－燃料の供給。

「C」－燃料供給の停止。



2　作業前にこれだけチェック●作業前の点検について

警　告

☆給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
☆燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。
☆平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
☆燃料が規定量以上給油されていないか確認してください。

● 調子よく作業するために〔詳細は「4こんな時どうする●簡単な手入れと処理」の章参照〕

燃　　料
➡ 自動車用無鉛ガソリンを給油します。
➡ タンク容量　…… 2.0ℓ
➡ 燃料ゲージ …… 燃料タンク内の残量がわかります。

エンジンオイル
➡ エンジンを水平にして、レベルゲージで規定量あるか点検します。
➡ 不足している場合、クボタ純オイルを補充します。
（夏……G30　冬……G20）規定量 0.6ℓ

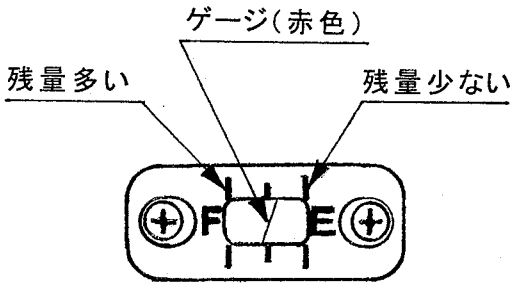
ミッションオイル
➡ 爪接地状態で検油口まであるか点検します。
➡ 不足している場合は、クボタ純オイルを補充します。（M80B又はM90）
規定量 FTR7－3.5ℓ

エアクリーナ
➡ オイルパンのOIL LEVEL線まであるか点検します。
➡ 不足している場合は、エンジンオイルを補充します。
➡ ダストカップにゴミがたまってないか点検します。
➡ エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

各テーブル
➡ ケーブル注油部より、エンジンオイルを注油します。

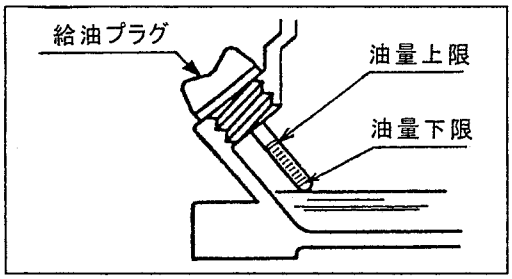
そ　の　他
➡ エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
➡ 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
➡ 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

2　作業前にこれだけチェック●作業前の点検について

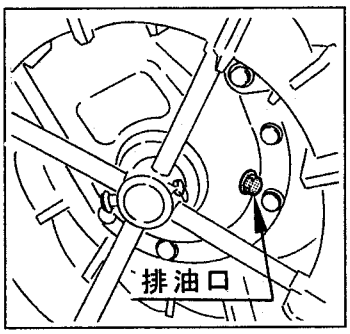


燃料ゲージ

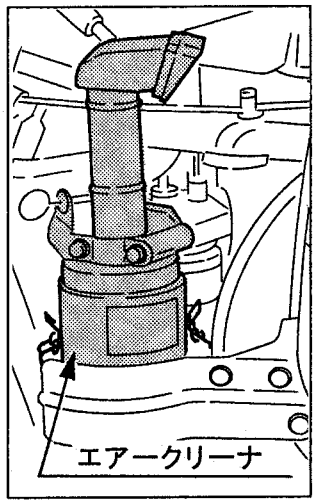
燃料給油口



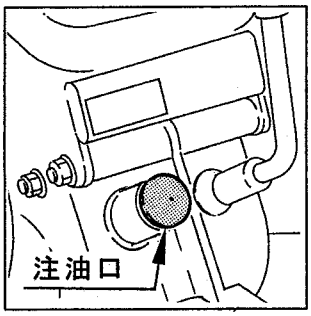
エンジンオイル点検，給油口



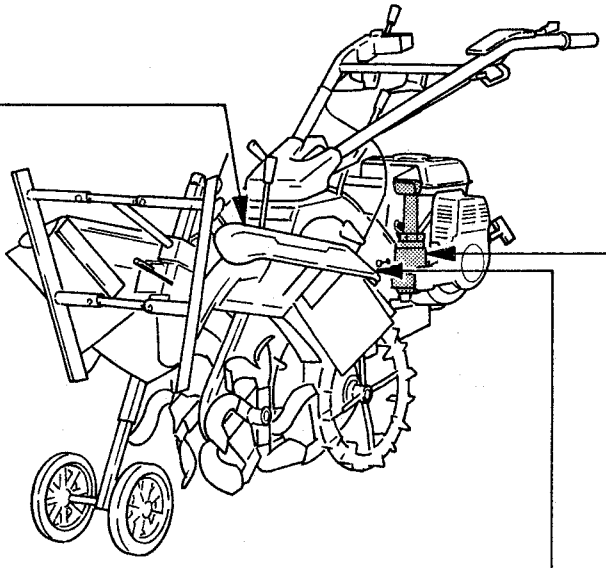
ミッションケース排油口

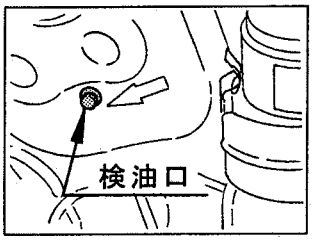


エアークリーナ



ミッションオイル注油口





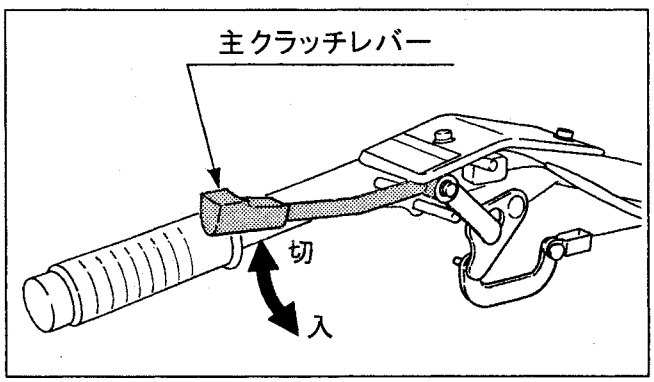
ミッションオイル検油口

3　このように運転します●上手な運転のしかた

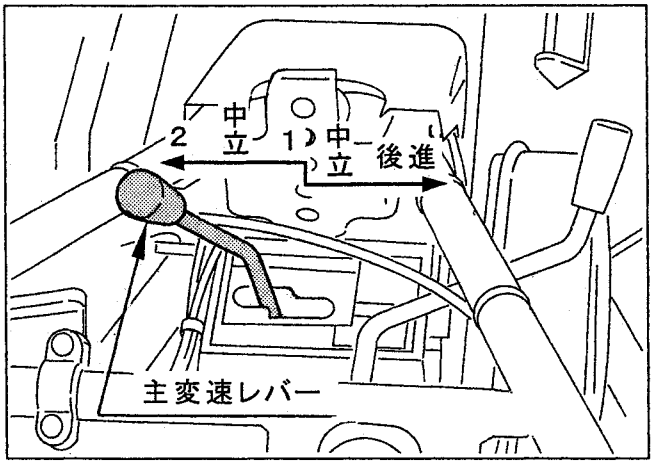
エンジンの始動のしかた

1. 主クラッチレバーを「切」にします。

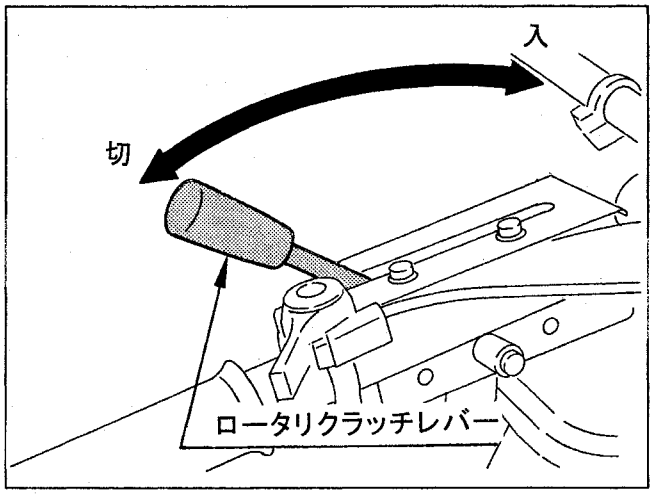
「切」の位置にしないとエンジンが始動できません。



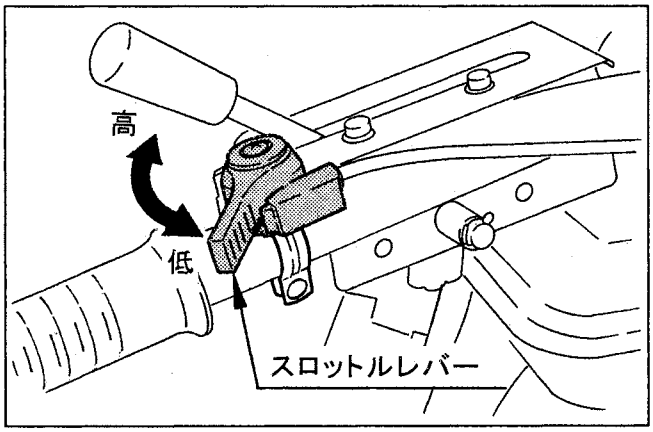
2. 主変速レバーを「中立」の位置にします。



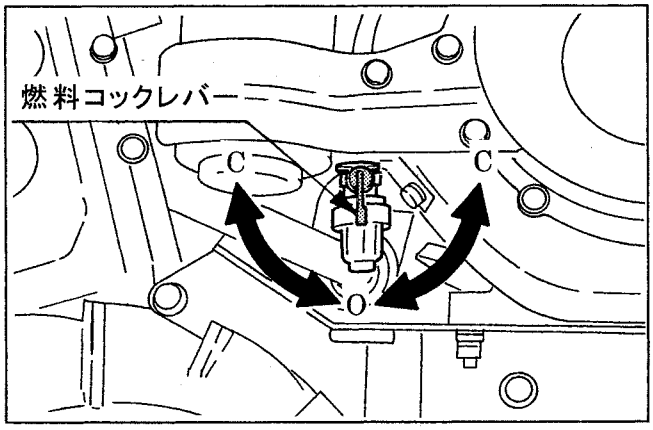
3. ロータリクラッチレバーを「切」にします。



4. スロットルレバーを「高」にします。

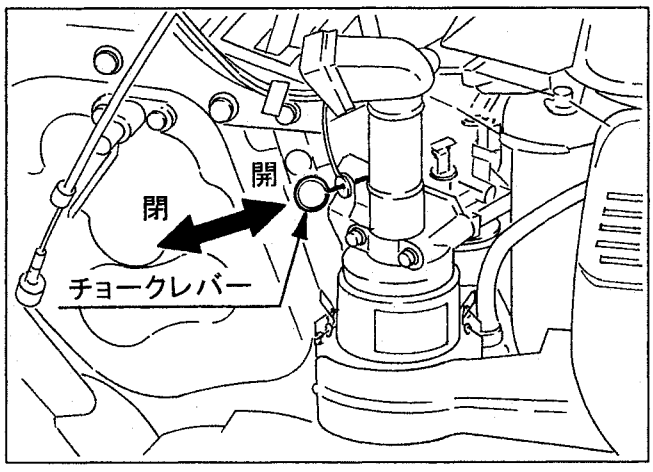


5. 燃料コックレバーを「O」にします。



6. チョークレバーを「閉」にします。

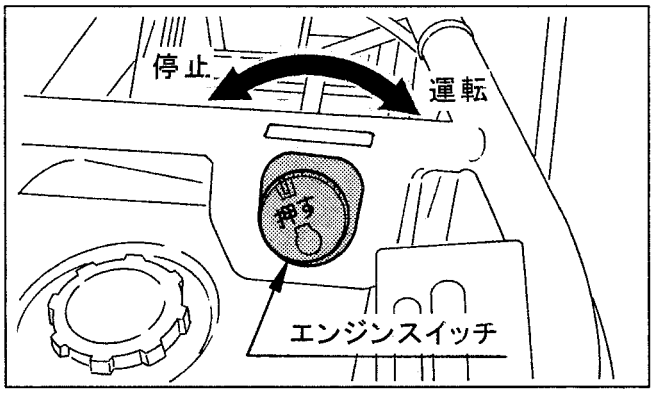
レバーを引く



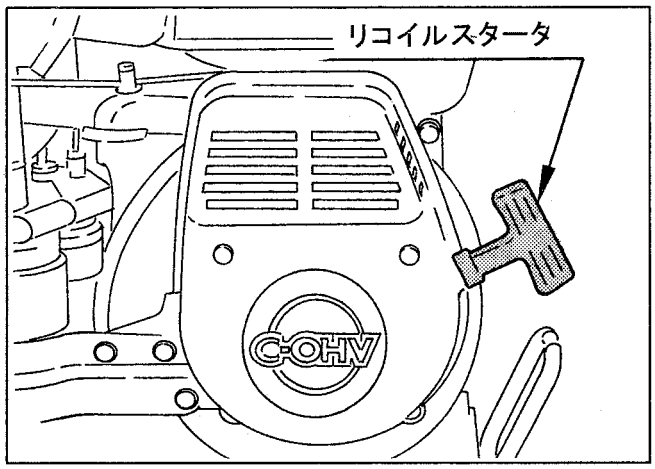
3　このように運転します●上手な運転のしかた

エンジンの始動のしかた

7. エンジンスイッチを「運転」にします。



8. リコイルスタータハンドルを握って、勢いよく引っ張ります。



・エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。

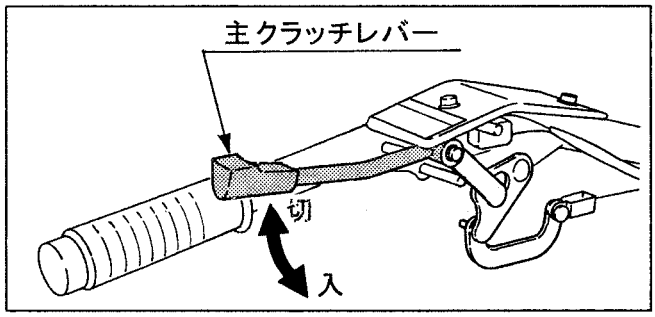
9. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に「開」の位置に戻します。2～3分暖機運転をしてから作業を始めてください。

⚠ 警　告

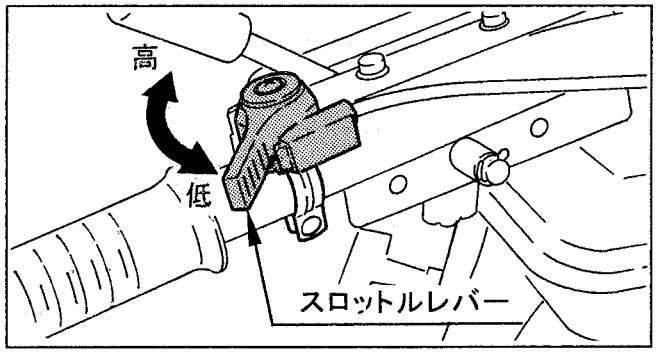
- ●マフラーの排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。
- ●リコイルスタータを引張る方向に人がいないか突起物、障害物、がないか確かめてから始動してください。
- ●エンジンの運転中は、危険ですからマフラーやそのほか操作レバー以外の物には、触れないでください。

エンジンの停止のしかた

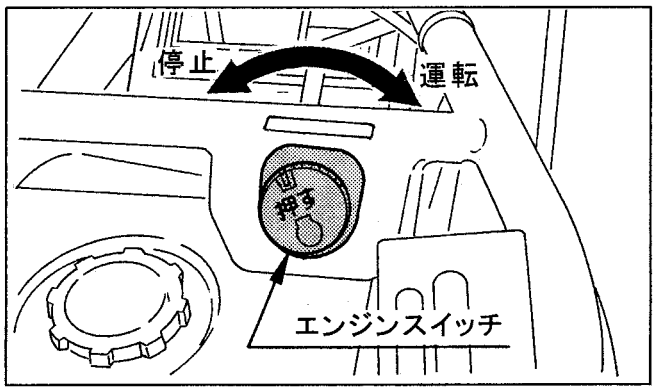
1. 主クラッチレバーを「切」の位置にします。



2. スロットルレバーを「低」の位置にします。

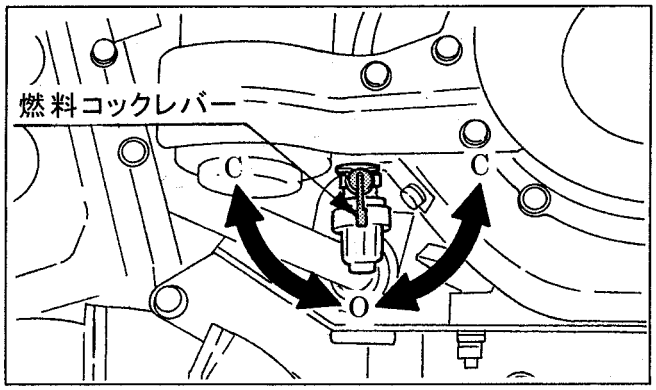


3. エンジン停止スイッチを「停止」の位置にします。



4. エンジンが停止します。

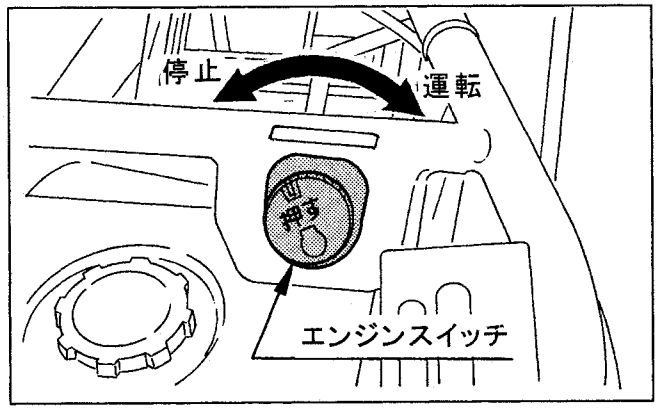
5. 燃料コックレバーを「C」の位置にします。



3　このように運転します●上手な運転のしかた

● 緊急停止スイッチの取扱

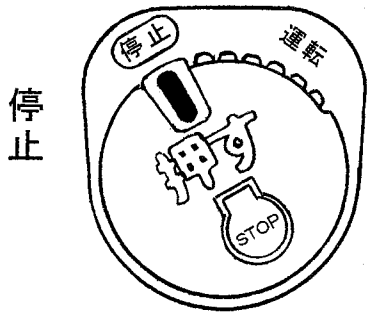
・エンジンスイッチが「緊急停止スイッチ」になっています。緊急の際にこのスイッチを素早く叩く様に押してください。スイッチが「停止」の位置になりエンジンが停止します。



・操作

1. 停止

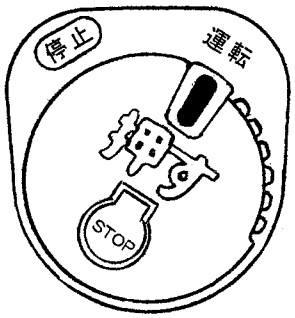
ボタンを押すと、ボタンが左に回り(反時計回り)「停止」の位置になり、エンジンの回転が止まります。



停止

2. 運転

ボタンを押込みロックを外し、そのまま止まるところまで右に回し(時計回り)ボタンを引き上げるようにして手を放すと「運転」の位置でロックされます。



運転

運転のしかた

1. エンジンが停止していることを確認してください。
2. ロータリ変速レバーを希望する回転位置にチェンジします。
3. 主クラッチレバーを「切」の位置にします。
4. エンジンを始動します。(14ページ「エンジンの始動のしかた」参照のこと)
5. 主変速レバーを希望する速度位置にします。
6. 副変速レバーを希望する速度位置にします。
7. スロットルレバーを「高」の位置にします。
8. 主クラッチレバーをゆっくりと「入」の方向に操作すると発進します。

⚠ 警　告

●運転中は周囲に人を近付けないでください。

⚠ 警　告

●狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。
●危険を感じたら、早めに手を離してください。

ならし運転(最初の10時間まで)

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

⚠ 警　告

●停止直後はマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

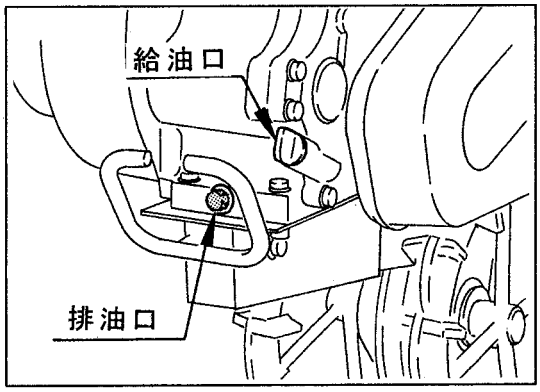
オイル点検と交換表

項　　目	点検方法	交換		オイルの種類と量
		第1回目	2回目以降	
エンジンオイル	機体水平	20時間 使用後	50時間 使用毎	クボタ純オイル G30又は G20 規定量　0．6ℓ
ミッションオイル	機体水平	20時間 使用後	50時間 使用毎	クボタ純オイルM90又はM80BF 規定量　3．5ℓ
ケーブル、レバー類				毎日始業時、エンジンオイル
前輪軸				毎日始業時、エンジンオイル
エアクリーナ		20時間 使用後	50時間 使用毎	エンジンオイル、OIL　LEVELまで

エンジンオイル

◆給油

1．エンジンを水平にして給油口の口元までいれてください。



◆排油

1．機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。

重　要

●粗悪なオイルを使用しますと、エンジの寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でクボタ純オイルG20又はG30とご指定の上、お求めください。（上表参照）

●排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

ミッションオイル

◆給油

1．機体を後傾にし検油口まで給油してください。

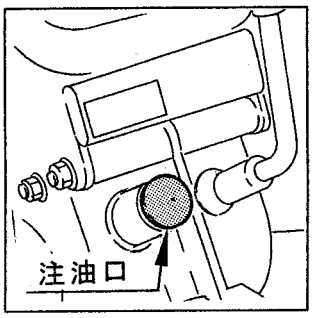
◆排油

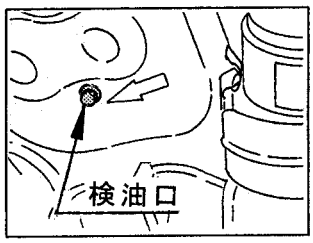
1．排油プラグを外して排油します。

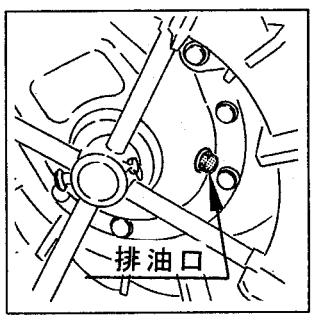
重　要

●粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でクボタ純オイルM90又はM80とご指定の上、お求めください。（上表参照）

●排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。







4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

エアクリーナエレメントの清掃

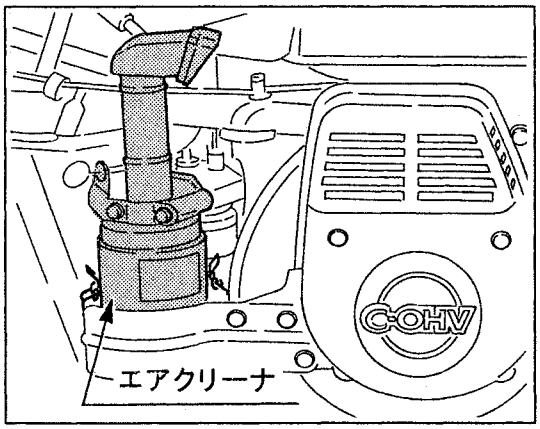
1．中のエレメントを取外し、白灯油で洗いきれいに振り切って取付けてください。

2．オイルだまりはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量（OIL LEVELの位置）入れてください。

重 要

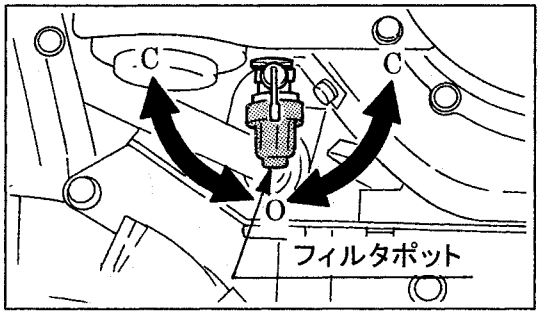
●汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

50時間使用ごと	エアクリーナの点検
100時間使用ごと	エアクリーナの清掃



フィルターポットの清掃

ポット内に水やゴミがたまっているときは、燃料コックレバーを「C」にして、フィルターポットを取外しガソリンできれいに洗浄してください。



重 要

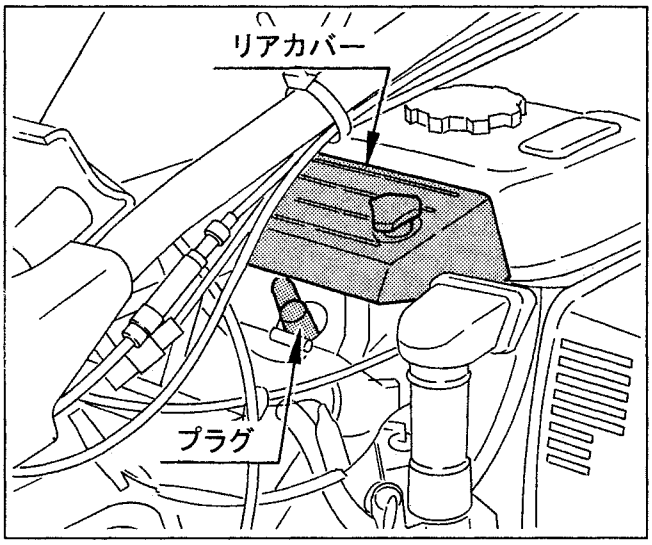
●取付時、燃料もれのないように確実に締付けてください。

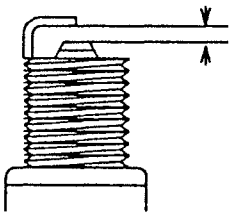
■点火プラグの調節・清掃

1．プラグ用ボックススパナでプラグを外して、清掃します。プラグはリアカバーを外して取出します。

2．電極のすきまが 0.9～1.0mm になるように調節してください。

3．点検調節は6ヶ月に1回行ってください。





使用点火プラグ	NGKBP6HS 又は デンソー W14FPUL-10

重 要

●締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめ手で締め込んでから、ボックススパナで締め付けてください。

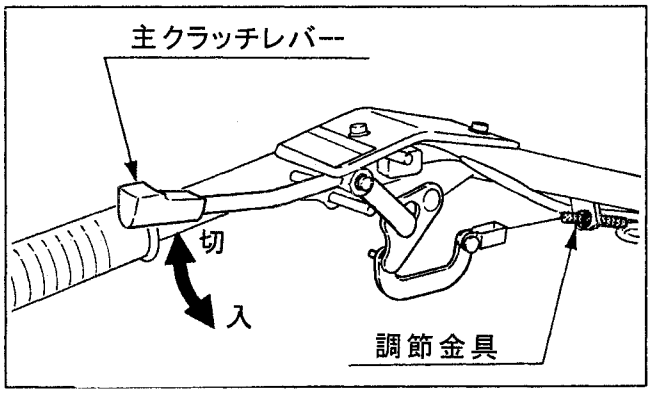
4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

主クラッチの調節

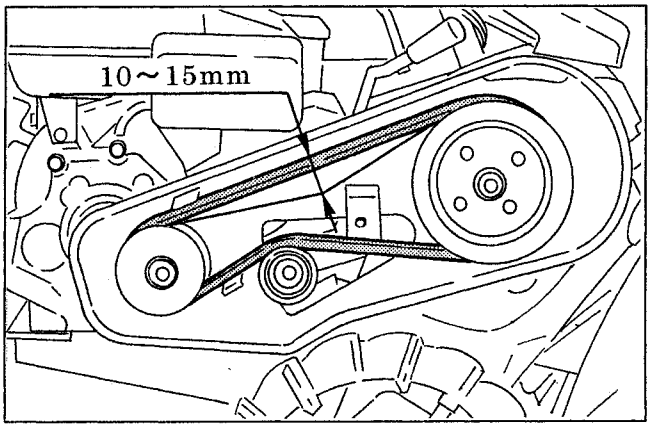
主クラッチレバーは、運転操作の源となる重要なレバーです。確実に断続できるように、次のことがらについて調節してください。

■主クラッチケーブルの調節

1. クラッチレバーを握ってもベルトがすべって動力を伝えない時……調節金具を長くする。
2. クラッチレバーを離してもベルトが連れ回りして、タイヤやロータリ爪の回転が止まらない時……
調節金具を締める。

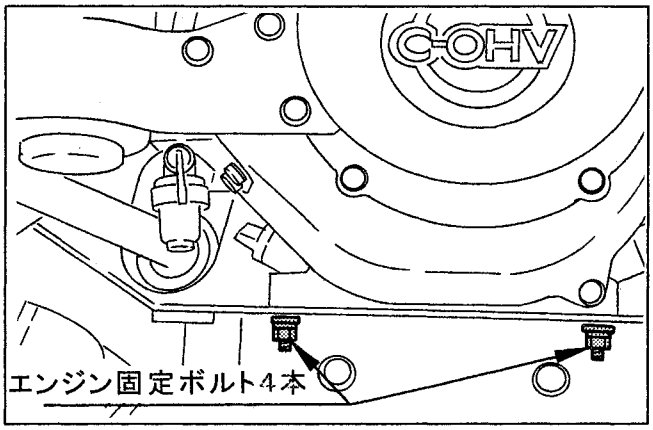


適正なベルトの張り	主クラッチレバー「入」の状態でベルト中央部を指先で押えてベルトが10～15mm たわむ程度。



■エンジンの前進によるベルトの調節

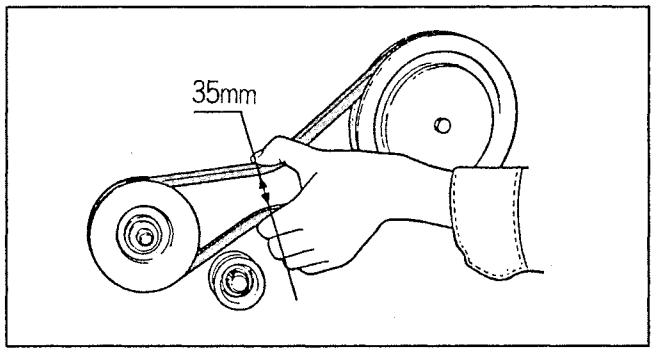
ベルトが伸びてケーブル調節で対応できない場会は、エンジン固定ボルト4本をゆるめて調節してください。調節後はボルトを元通り締付けてください。



●エンジンを移動させた場合、主クラッチの調節をもう一度やり直してください。

■新しいベルトに交換する場合

ベルト中央部を指ではさんですき間が約35mm たわむくらいにしてエンジン固定してください。



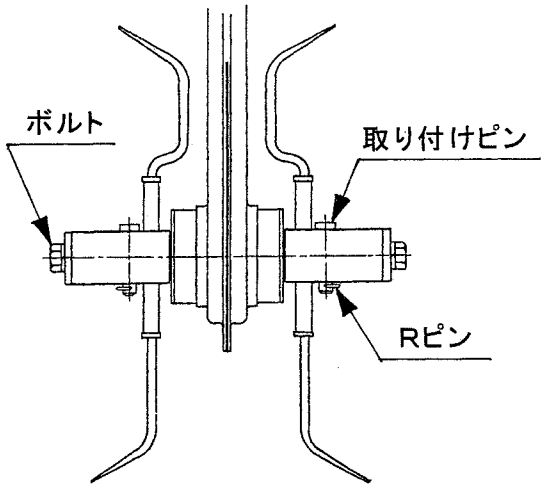
⚠ 警　告

- 調節が終わったら、主クラッチレバーを「切」・主変速レバーを「中立」にしてエンジンを始動し、主クラッチが「入」のときにベルトが作動し「切」の時に停止するか確認してください。
- 調節・交換が終わったら、必ずエンジンを停止させベルトカバーを取り付けてください。

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

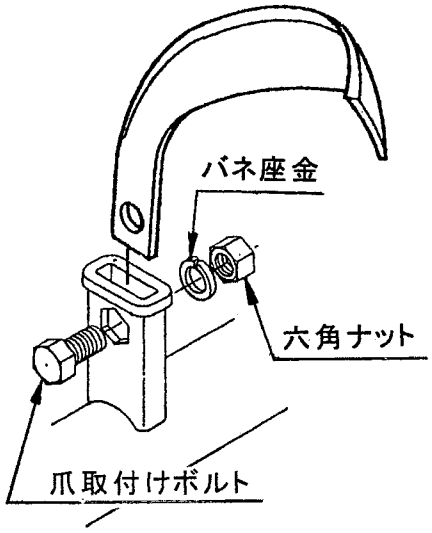
爪軸の取付け方

前輪側から見て、打刻「L」の爪軸を左側の耕うん軸に取り付け、取り付けピンを挿入しRピンで止め、爪軸の側面からボルトで締付けます。



爪の取付け方

(1)爪軸のブラケットに爪を差込み爪ブラケットの六角穴に爪取付けボルトを頭部の六角部を合せて挿入し爪を六角ナットとバネ座金で締め付けます。

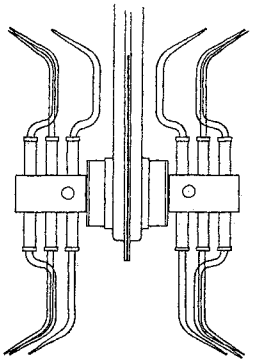


(2)爪の配列

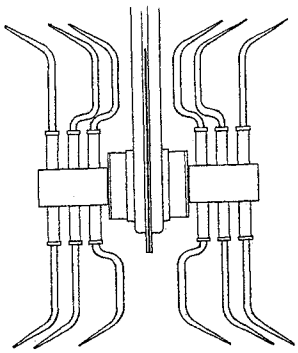
爪は溝幅により爪の配列が異なりますので下図にしたがって取付けてください。

①FTN7Y

●溝幅250mm



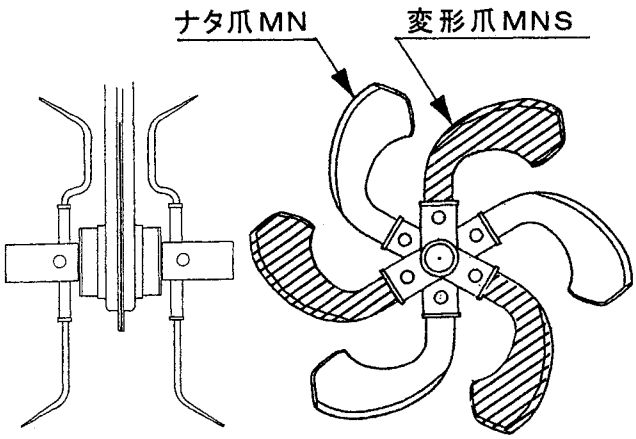
●溝幅300mm



☆溝幅250mmと300mmはナタ爪と変形爪の付け替えにより行われます。

②FTN7S

爪軸は同じ位置にブラケットが6本付いています。
ナタ爪MNと変形爪MNSを交互に取付けます。



4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

・必要部品

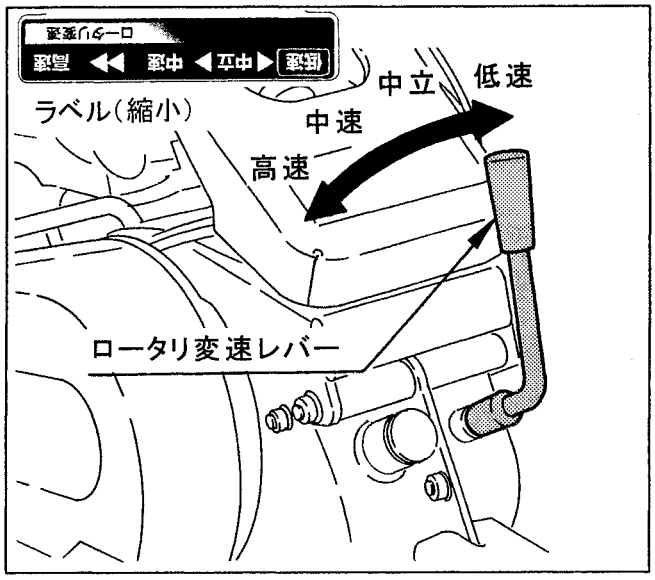
型　式	FTN7S	FTN7Y	
溝　幅　mm	200	250	300
ナタ爪 MN L	3	3	3
ナタ爪 MN R	3	3	3
変形爪 MNS L	3	3	3
変形爪 MNS R	3	3	3
爪取付ボルト	12	12	12
六角ナット	12	12	12
バネ座金	12	12	12

爪軸回転数

希望する作業の爪軸回転を変更するには、ロータリ変速レバーにより行います。

ロータリ爪軸回転数

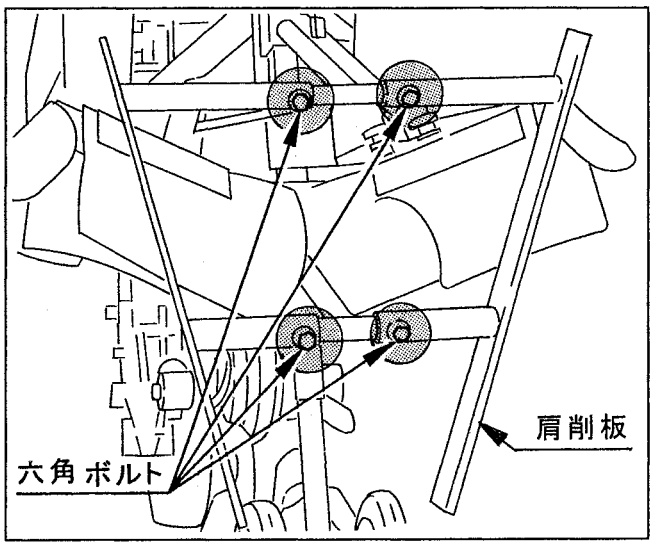
ロータリ変速レバー低速	238 rpm
ロータリ変速レバー中速	375 rpm
ロータリ変速レバー高速	529 rpm



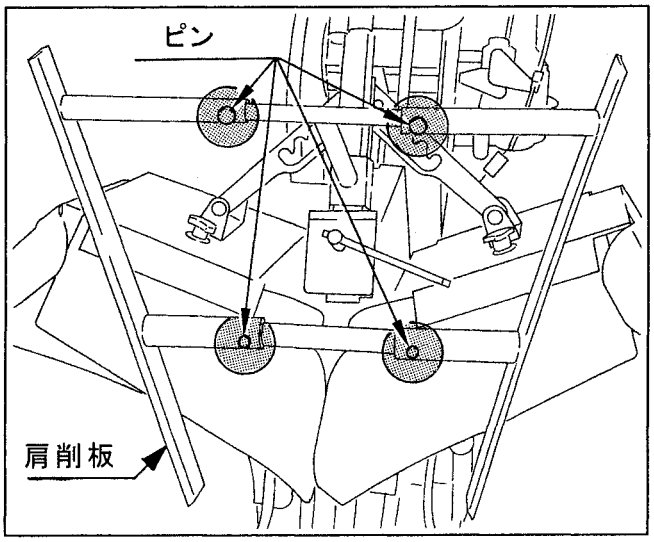
肩削板の調節

FTN7Sは六角ボルトをゆるめて、FTN7Yはピンの抜差しにより調節します。調節は左右が均等になるように開いてください。。

FTN7S



FTN7Y



（注）

「肩削板」は標準付属部品です。

4　こんなときどうする？●簡単な手入れと処置

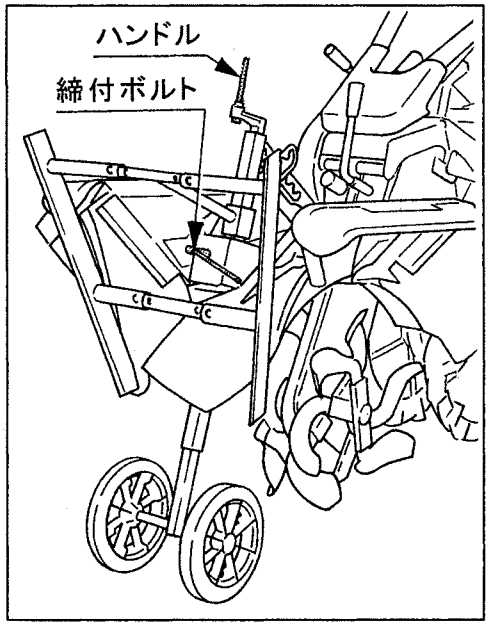
耕深調節

前輪の調節

締付けボルトをゆるめて前輪を上下にスライドさせ耕深を調節します。ハンドルを回して微調節します。

・前輪を上げる……耕深が深くなる

・前輪を下げる……耕深が浅くなる

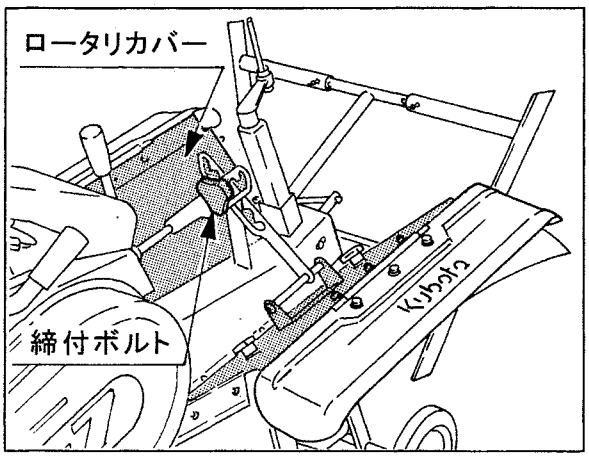


ロータリカバーの調節

溝掘り作業やハウス内での畝作り作業などにおいては、ロータリカバーの上下及びサイドカバーの開閉により土の飛散や落下位置を調節します。

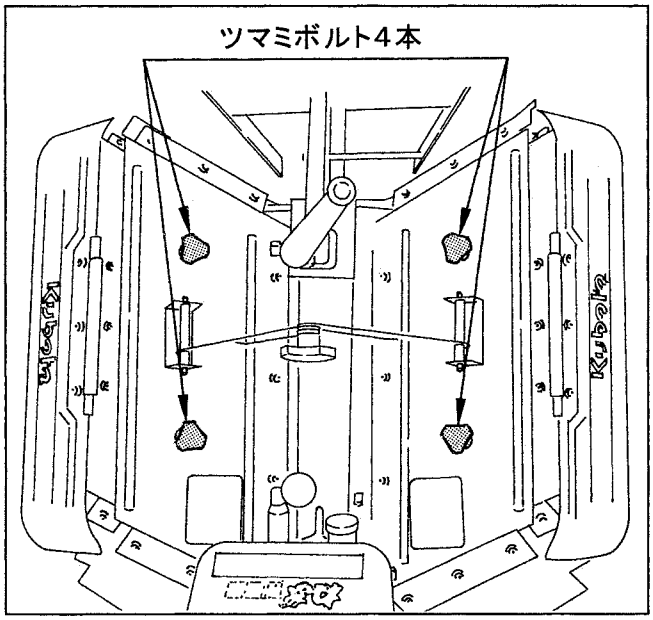
(1)ロータリカバーの調節

ロータリフレームの締付けボルトを緩めて調節します。



(2)カバー幅の調節

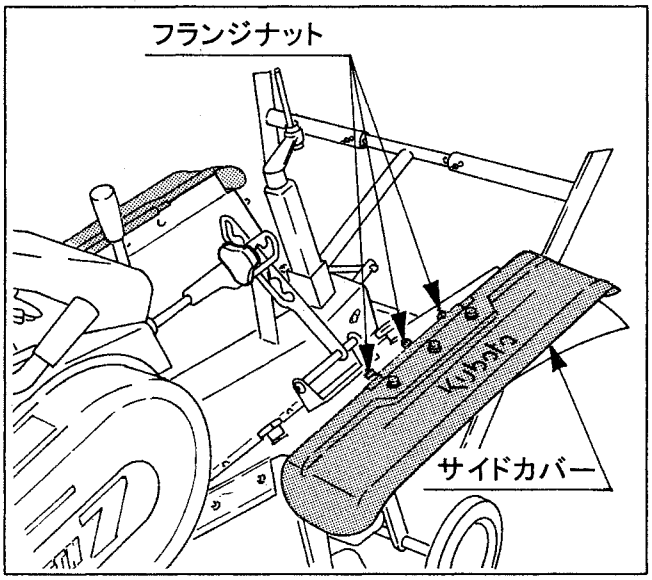
カバーはスライド式になっています、ツマミボルト4本をゆるめて調節します。調節がすんだらツマミボルトを元通り締付けてください。



(3)サイドカバーの調節

サイドカバーはワンタッチで調節できますので用途により調節してください。

調節する際に操作重荷が強すぎたり、弱すぎる時はカバー上部のフランジナットを調節してください。



5　作業が終ったら

作業後の清掃

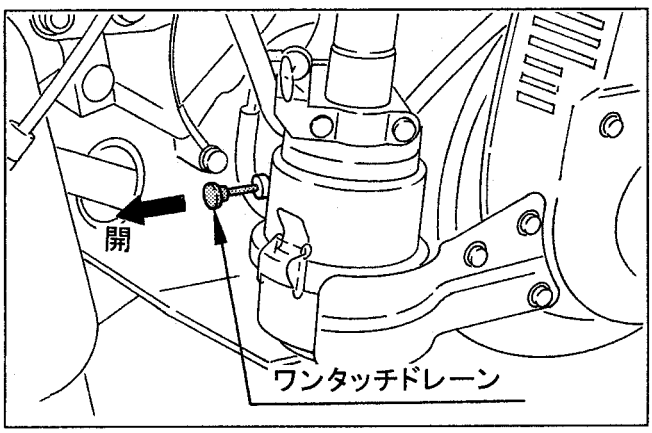
作業後は、必ずその日のうちに清掃を行い各部についている土やゴミを落とし、各摺動部には錆びないように油やグリース又は防錆剤を適宜塗布してください。ファンカバー内にゴミが詰まるとエンジン焼付き等の原因になりますのでよく点検・清掃を行ってください。

長期格納時の手入れ

(1)主クラッチレバーは「切」の位置で保管します。
(2)燃料は全部抜き取ります。
(3)オイル交換し各部をきれいに清掃します。
(4)エアークリーナエレメントを清掃します。
(5)リコイルスタータハンドルを引いて圧縮位置で止めておきます。
(6)カバーをかけ、湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーはエンジンが冷えていることを確認した上でかけてください。

■燃料の抜き取り

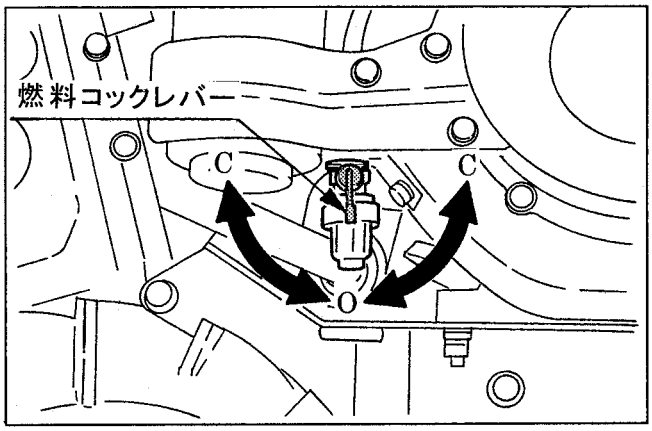
長期格納時燃料をそのままにしておきますとタンク内や気化器内のガソリンが気化して、次の始動時始動が困難になることがありますので、全部抜取ってください。気化器内のガソリンは「ワンタッチドレーンレバー」を引いて全部抜取ってください。



⚠ 注　意

車両で運搬する時の注意

★燃料コックレバーを必ず「C」にしてください。
燃料コックレバーを「C」にしないで運搬した場合、次の現象が生じます。
□機体の振動で気化器の針弁が振れる。
□エンジンクランクケース内へ燃料が流入する。
□エアクリーナに燃料が流入する。
などからエンジン始動が困難な場合がありますので、必ず燃料コックレバーを「C」にしてください。



付記・主要諸元・走行速度一覧表・主な消耗品一覧表・標準付属部品

主　要　諸　元

型式				FTN7 S	FTN7 Y
機体寸法	全長 mm			1520	
	全幅 mm			560	
	全高 mm			1010	
	重量 kg			88	
エンジン部	型式名			GR170－GT2－KNT	
	排気量 cc			169	
	連続定格出力 kW/rpm			3.2(4.4ps)／1800	
	最大出力 kW			4.6(6.2ps)	
	エアクリーナ			オイルバス方式	
	始動方式			リコイルスタータ	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 ℓ			2.0	
	潤滑油容量 ℓ			0.6	
伝動部	主クラッチ方式			ベルトテンション	
	エンジン→主軸			VベルトSB41×2	
	主軸→車軸			ギヤ、チェン	
	操向クラッチ			――	
	変速段数			前進4段後進2段(副変速含む)	
走行速度	前進	1速	副変速 低速	11.1m／分	
			副変速 高速	16.8m／分	
		2速	副変速 低速	34.4m／分	
			副変速 高速	52.1m／分	
	後進		副変速 低速	13.6m／分	
			副変速 高速	20.7m／分	
	車輪			ゴムラグ車輪φ350	
ロータリ部	方向			センタードライブ	
	変速段数			3	
	溝幅 mm			180	250・300
	爪回転径 mm			340	
ロータリ回転数	低速			262rpm	
	中速			379rpm	
	高速			535rpm	
ハンドル	上下調節			5°づつ5段	

標　準　付　属　品

品　　名	数量	備　　考
プラグボックスアッシ	1	
取　扱　説　明　書	1	
保　　証　　書	1	

主　な　消　耗　部　品　一　覧　表

品　　番	品　　名	個　数	備　　考
	Ｖ　ベ　ル　ト　　Ｓ　Ｂ　４　１	２	
	ケ　ー　ブ　ル（主クラッチ）	１	
	ケ　ー　ブ　ル（スロットル）	１	
	ケーブル（ロータリクラッチ）	１	
	ケーブル（ハンドル上下）	１	
	オイルシール（　　）	２	耕うん軸
	オ　イ　ル　シ　ー　ル	２	車軸
	ピ　ン（ア　ク　セ　ル）	２	
	ス　ナ　ッ　プ　ピ　ン	２	
	耕　　う　　ん　　爪	１２	
	爪　取　付　け　ボ　ル　ト	１２	
	バ　ネ　ザ　ガ　ネ（Ｍ１０）	１２	
	六　　角　　ナ　　ッ　　ト	１２	

LK331-4311-1最終頁

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（ ） ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号(製造番号)	エンジン型式 エンジン番号

万一購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011) 662-2121 〒063-0061 札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048) 862-1121 〒338-0832 浦和市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(0722) 41-8506 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所：電(092) 606-3161 〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号

株式会社クボタアグリ東日本

秋田事業所：電(0188) 45-1601 〒011-0901 秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162 〒981-1221 名取市田高字原182番地の1
東京事業所：電(048) 862-1124 〒338-0832 浦和市西堀5丁目2番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261 〒950-0992 新潟市上所上1丁目14番15号

株式会社クボタアグリ西日本

金沢事業所：電(0762) 75-1121 〒924-0038 松任市下柏野町956-1
名古屋事業所：電(0586) 24-5111 〒491-0031 一宮市観音町1番地の1
大阪事業所：電(0722) 41-8550 〒590-0806 堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子事業所：電(0859) 33-5011 〒683-0804 米子市米原7丁目1番1号
岡山事業所：電(086) 279-4511 〒703-8216 岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091 〒769-0102 香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所：電(092) 606-3725 〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181 〒861-4147 熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　LK331－43111

Kubota